

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870600319		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	下館ケアセンターそよ風		
所在地	茨城県筑西市甲44		
自己評価作成日	2020年7月31日	評価結果市町村受理日	2021年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0870600319-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2020年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭での生活の延長のように、ご利用者様が何不自由なく生活していける様に、個別に支援することにより、職員との間に信頼感が芽生え、ホール内に明るい声が響き渡る環境である。スタッフのほぼ全員が介護福祉士国家資格保持者であり、様々な認知症ケアの研修を受けている。それに基づいたケアを行うと共に、更なる質の向上を目標に掲げ日々の支援に活かされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな組織の中に入って、事業所に一任された事業内容で、利用者にとって何がベストであるかと検討し、個人個人に合わせたケアの提供を行うことで、利用者や職員との信頼関係が生まれ、笑顔があふれている事業所である。利用者が自分を発揮する場面(料理の下準備・お盆拭き・食器洗い・洗濯干し・たみ・裁縫等)があり、生きがいと同時に残存機能の維持に努めている。自治会長・民生委員の協力を得て、地域交流を積極的に実施している。職員は介護福祉士の資格を取得し、認知症に対する専門的知識の理解が深く、お互いが意見交換を行うことで目指しているところは同じと認識し、日々、さらなるレベルアップに向けた取り組みを行っている。万が一、職員が感染症に罹患した時に備え、スクランブルスタッフの活用や介護アシスタント配置。利用者が新型コロナウイルス感染した場合の対応マニュアルは整備しており、本社の指示の元、対応することになっている。一時的に予約制で面会可能としていたが、今は面会中止しており、電話連絡時や毎月の広報誌発行の際、今まで以上に利用者の状況を詳しく報告している。
*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の基本理念を掲げ、事務所に提示し毎日の朝礼時に理念、月間目標の唱和を欠かさず実施し、共有化と各職員の意欲向上を図っている。	法人やホーム独自の理念を目につきやすい事務所に掲示し、朝礼時に理念と月間目標を唱和して確認と意識付けを図っている。職員からは、笑顔で個別ケアに努め接していく中で、信頼関係が生まれることが嬉しいとの話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を通し、併せて広報誌等により地域活動の情報収集に努める一方、地域の方々を納涼祭やイベント等にご招待する機会を設け親睦を深めている。	自治会に加入し、毎年、回覧板・広報誌等の情報から地域イベントに参加したり、事業所主体の納涼祭は地域住民の協力を得て大いに盛り上がっているが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で全て中止となった。毎月の新聞で、医療・福祉・介護およびホームの役割などを掲載しており、地域の回覧板でも発信している。介護・福祉に関する相談があり、アドバイスをしたり関係機関に繋げている。以前は傾聴・歌・バンド・踊り等のボランティア訪問があり、利用者参加型で楽しんでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独自の月刊新聞を発行し、医療、福祉、介護及びグループホームの役割など情報を掲載し回覧板等を通し、発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	率直な意見を頂ける関係を構築しており内容に関しては即、支援に反映している。また夜間想定避難訓練の実施協力も継続して体制を確保していく。	2ヶ月毎に家族や利用者代表・区長・民生委員・自治会長・行政・事業所担当者のメンバーで開催している。議題は事業予定・報告・利用者状況・事故報告等で、今年4月・8月は書面報告、6月は時間を短縮して実施した。会議内容は広報誌に掲載し、玄関に議事録も置いて閲覧出来るようにしている。職員には議事録を回覧し、確認後は押印している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様の状況の報告、事故等に関しても速やかに相談、報告を実施。運営推進会議の場所を通し、事業所での疑問に感じることなどの相談も行っている。	関係担当課とは日頃から連絡を密にとり、相談や報告を通して協力関係を築いている。小・中・高生の体験学習を受け入れ、高校生が演奏会をしてくれるのを利用者は楽しみにしている。ラン伴に参加。オレンジカフェを開設したり、認知症サポーター養成講座の協力要請をがあり出向いている。認知症介護スタッフ会議に参加し、情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止対策委員会を設置し各部署全体に於いて勉強会を通し、身体拘束についての知識を高め、要領など全職員が周知できるよう努めている。	身体拘束防止対策委員会を設置し、3ヶ月毎に勉強会を実施している。拘束となる行為・弊害を周知し、利用者の安全・安心に向けたケアに努めている。安全上、やむを得ず一時的に拘束となる場合の書類は整備している。スピーチロックやグレーゾーンの事例で検討を行っている。玄関は防犯と安全上施錠しているが、家族に説明し了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対策委員会が中心となり、定期的な内部研修を実施。また内容に関しても全スタッフが理解できる様情報の伝達を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護、成年後見制度の学習の時間を設け、ご利用者様の状況に適した対応に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け契約及び重要事項についての説明を行い、同意書を含め取り交わしを実施。また管理者を中心とし、介護保険についてきちんと説明できるよう情報を共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見を反映できる様、玄関先などにご意見箱を設置。また家族会などを定期的に開催し、要望に応じた体制の整備を行っている。	意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示しているが、そちらからの意見等は無い。面会時や家族会で意見の吸い上げに努めているが、感謝の言葉が多い。毎月、請求書と一緒に利用者の状況を詳しく報告している。電話で家族と連絡を取り合っている利用者もいるが、現在は早く新型コロナウイルスが収束し、面会できるようになることが家族の望みである。職員の異動は書面の連絡事項欄で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署において月2回以上の会議を開催し、意見交換の機会を設けている。また日々の業務のみではなく相談や質問の解決に取り組める環境整備はなされている。	運営に関する報告は事前にある。現場の気づきはその都度話し合い検討している。月2回以上の会議を開催し、意見交換を行っており、重度化した利用者の対応として、現在看取りは実施していないが、出来る限りギリギリまで支援することを説明し、理解を得た。個別面談から職員の業務に関する意識や心身状況の把握に努めている。資格取得の奨励、外部研修受講(伝達研修で共有)でスキルアップに努めている。施設長・管理者・職員との関係は良好で、質問や相談はし易く、職場環境は良好でストレスや不満は無いと職員ヒアリングで聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談の機会を設け本人の意義、スキル確認また、業務における課題などスタッフ個人個人の心身状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回の内部学習会や他のセンターとの合同会議に参加。また各々の向上心を確認し外部研修の参加を促し、全スタッフに周知できる様伝える。事業所内では3ヶ月の教育研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所などのイベントに参加し、随時情報交換を実施。また他事業所との定期的な研修を行い、学びの機会と内容の反映に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時の会話、表情から様々な情報を収集し、またご利用前に事業所の見学を勧め、スタッフとの交流の時間を確保。ご本人並びご家族の不安を少なくするための工夫をそれぞれに実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の見学などを行い、グループホームの特徴、雰囲気をご理解頂ける様に対応。またサービスの利用に向けご家族の思い、事業所に向けての意向をお伺いし、個別対応の体制をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の要望をもとに、適切なフォーマル、インフォーマルサービスの情報を説明し実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の得意分野、趣味、習慣など生活環境の十分な情報を収集し、ご本人らしく生活できる様考慮し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を迅速に伝え、相談、協力が得られるような関係のもと、共有の時間を作って頂ける様ご家族に随時お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム便り、また直筆の文書、写真の送付に取り組み、継続的な関係の構築に努めている。	便り・直筆の手紙・写真を家族に送付しており、近況が判ると好評である。手紙・年賀状・暑中見舞い・電話で遠方の家族・知人・友人と連絡を取り合っている。コロナ前は家族とお墓参り・美容院・買い物・外食などの馴染みの場所にてかけていた。同級生・友人・知人の訪問も多い。訪問マッサージ(コロナ禍で中止中)を受けたり、デイサービスの利用者と馴染みの関係が出来ている。乳酸飲料を売りに来るので、買う利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特性をスタッフ全員が理解し、生活全般にわたりスムーズで柔軟な関係が確立できる様配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への入所後の訪問や面会、転院先の紹介など、ご家族からの様々な相談に応じ継続的に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話、表現からご本人の思いを確認すると共に、意思伝達が困難な方に対しても、表情、行動から意思を読み取れるよう検討している。	利用者の生活歴・職歴から普段の生活の中にそれぞれの役割があり、洗濯干し・たみ・食器洗い・掃除・手すりの消毒などの家事、雑巾縫いや職員のズボン直す等の裁縫、平行棒・屈伸などの運動や図書館に行く等、利用者の暮らし方の希望の実現に取り組んでいる。困難な場合は問いかけを工夫したり、表情や様子から利用者の本音が聞けるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査を実施し、基本的な情報の収集、把握に努めながら、ご本人らしい暮らし、空間造りに努めている。また日々の生活の中にも見出せる様、観察に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中から個人の持つ能力、可能性、心身的特徴の観察に努めている。また日々の変化を個々の支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の要望を確認した上で、介護の時間を通し、支援内容を計画に反映している。	利用者・家族から希望や要望を聞き、カンファレンスでニーズとケアのあり方について話し合いプランを作成している。介護援助計画表・介護支援経過記録・ケース記録は短期目標と提供したケア内容が連動した記録になっている。介護支援計画表の評価から3ヶ月毎のモニタリングを経て評価に繋げ、現況に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の中から確認できるニーズに関して、また申し送りの内容でスタッフが感じた情報をカンファレンス時に共有、整理、検討を重ね実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の症状や病歴を含めた変化、折々のご家族の要望に柔軟に応じられるよう、併設の事業所の特徴を活かし、また自治会の協力のもと実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の希望や要望、趣味、心身の様子に応じ、活動の機会を設け継続的且つ、新しい取り組みが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた医師による継続的な医療体制と状況に応じた専門医院の適切な情報を提供し要望に対応している。	協力医療機関から月2回の往診と週1回の訪看が入り、利用者の体調管理に努めている。かかりつけ医受診は家族付き添いが基本であるが、職員が付き添うことも可能であることが確認できた。家族付き添いの場合も受診結果の報告を受けている。職員は申し送りノートで情報を共有している。併設のデイサービスの看護師と医療連携体制が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と医療連携の体制、並びに週に一回ずつの訪問看護にて健康管理を実施。日々の変化はもとより助言を頂きながら支援に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供はもとより、入院による精神的な負担を考慮し、定期的な面会、病院からの情報の収集に努め、早期退院に繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う変化や、事業所に出来る役割について、ご家族に説明を行い、併せて看取りの指針を文面にてご家族に伝え同意を頂いている。	契約時に看取り指針を説明し、同意書を取り交わしている。現在は看取りは実施していないが、前回の評価や職員の想いを受け、看取りを開始した系列グループホームを参考にしながら、看取りの実施に向けて検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な学習会の開催と、緊急時のマニュアルの理解を全スタッフで閲覧できるように準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜想定避難訓練の実施にて災害に備えている。また、地域の方のご理解のもと、協力を頂ける関係は構築されている。	自主・消防署指導で年2回、昼・夜間想定を含め訓練を実施している。通報から消防車が到着するまでの5分以内に、利用者を2階の外廊下に避難させるように言われている。近隣住民への協力依頼内容を構築して合同訓練を行い、備蓄品や緊急持ち出し用品は整備している。ハザードマップでは指定地域になっていないが、風水害マニュアルは整備している。交通事故マニュアルは車に搭載している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある介護をテーマに、接遇マナーの研修の実施やお互いが訂正し合える関係が出来ている。	利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。尊厳ある介護をテーマに接遇マナー研修を実施し、職員同士で注意をし合える関係が出来ている。関係書類の保管・情報開示に関する同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちが出しやすい場の雰囲気づくりや言葉掛けに留意し、自己選択が可能に限り出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に合わせた日々の生活が送れるよう念頭に置き、出来る限り希望に添えるよう、ケアの内容の見直しを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感、また嗜好に対応し、馴染みの店舗にて散髪の実施。2か月に一度の出張美容室も利用し女性の方には希望を伺い、ヘアカラーなども行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々が担う役割を有する能力を活かしながら、参加する楽しさと食する楽しみを感じて頂ける様支援している。	管理栄養士が作る献立を厨房で調理し、ホームで盛り付けて提供している。朝食は夜勤者が、日曜日は利用者と一緒に食事の準備をしている。利用者の状態に合わせた形態で提供し、食事介助に入っている職員は他の利用者を目を配っている。月2回のイベント食や甘味、郷土食のしもつかれや出前、外食は利用者の楽しみとなっている。嫌いな食べ物は代替品を提供。誕生日は外食支援を実施している。おやつにどら焼きなどを作る。食後は口腔ケアを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量、チェック表の活用、また栄養士によるバランスのとれたメニューにて確保。定期的に体重管理と主治医との連携も確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外出、食後のうがいや口腔ケアの徹底を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、ご本人のペースに合わせたパターンを把握。トイレでの排泄支援を勧めている。	排泄チェック表・パターン・表情・様子から声掛けを行い、トイレに誘導してトイレでの排泄や排泄の自立に努めている。夜間おむつ対応でも昼間は布パンとパットで対応しトイレに誘導している。改善した利用者があり、本人の意欲が向上して家族に喜ばれた。体操・食事・漢方を取り入れ、薬剤に頼らない自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動プログラムに沿って体操を促したり、食事内容や漢方を取り入れ、薬剤に頼らない自然な排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望、状況に合わせた入浴が出来るよう配慮を行い好まれない方には接遇面で工夫しながら支援している。	最低でも週2回は入浴し、利用者の要望に合わせた入浴支援を行っている。介護度の高い利用者には二人体制で介助を行い、安心してゆっくりとした入浴の後には『気持ちがいいありがとう』という利用者からの言葉があり、職員の励みとなっている。感染対策は実施されている。巻き爪は訪問に処理してもらっている。着替えの準備は自分もしくは職員と一緒にしている。更衣の着脱では利用者の残存能力を活かす配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息の時間を設けたり、各々の状況に合わせた対応を実施。また一日のリズムを考慮し、日中の活動量を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の担当が中心。また個々の変化に合わせた薬剤管理をスタッフ側も学習。また変化に応じ適切な処方出来るよう家族に相談のもと、主治医に相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を充分に把握し、多種多様な事柄に参加頂いている。また季節感を取り入れた行事なども実施しており、今後も更に内容に工夫を検討。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望に合わせ、外出や外食を推進。またご家族との関わりも念頭に置き、ご負担にならない範囲でのご協力の相談をさせていただいている。	コロナ以前は近場の神社や公園に出かけていた。毎年、初詣や茅の輪くぐり、四季の花の観賞や祭り、水族館にグループ毎に出かけている。家族と一緒に外食・外出する利用者もいる。個人支援で図書館や買い物に行っている。今年は大相撲筑西場所を楽しみにしていたが、感染症拡大の影響で中止となり、利用者は残念そうだった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理能力に合わせ、自己管理して頂いている。管理が困難な方に関しては、物品購入時の支払いを職員が対応し、出納の記録にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、親類、友人など関わりのある方にご理解のもと、自由に連絡が取り合える様に配慮している。また年賀状などにも工夫を凝らし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただきながら、生花、装飾など職員の工夫や感性のもと行っている。	共有空間はすだれ・朝顔・ひまわりなど季節を感じる物が飾られた。利用者の行動が直ぐ見渡せるので、常に職員の声掛けがある。イベントの写真を飾り、その時々を回想出来るようにしている。トイレや風呂場の表示は分かりやすい。気の合う人とソファで談話を楽しんでいる姿がある。大きな1ヶ月毎の手作りカレンダーがあり、見当識への配慮があった。献立を記入し、食べる楽しみへの工夫があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との談話が行える様、ソファのスペースを用意。また居室の訪問も双方のご理解のもと、自由に行って頂きながら、自分らしいペースを推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴を確認し、ご本人の愛用の品々などを持参して頂ける様、ご家族の協力を頂いている。また配慮なども雰囲気考慮し対応している。	家族の承諾を得て、自室前に表札を見やすく掲示し、混乱防止に努めている。馴染みのテーブル・籐の整理ダンス・椅子・空気清浄機・冷蔵庫・テレビ等を動線と安全面に配慮し設置している。家族の遺影や家族の写真、観葉植物やぬいぐるみ、鏡や目覚まし時計などを置き、個人に合わせた心地よい居室となっている。掃除は職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	了承確認の元、自室の表札の表示やトイレの案内表示もわかりやすく配慮。個人の居室に関しては安全確保のもと、自立支援を念頭に置いた空間を作っている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム下館ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 2021年4月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	運営推進会議も書面開催、自治体主催のお祭りも相次いで中止となっている現在、地域との関わりがうまく取り組めていない	子供110番の登録	近隣の小中学校に相談し、通学中の子供たちの駆け込み所として、当事業所を子供110番に指定して頂く	6ヶ月
2	60	外出や外食に出かけられない	利用者様の外出にこだわらない気分転換を図る	カラオケ大会や外注食の機会を増やし、中庭で日光浴をしながらお茶を楽しむ	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。